

まなざし

雨和七瀬

君の背を追って嵐に飛び込む
どこを向いても前髪が鬱陶しい
君はどこへ向かうの、僕の声も僕に聞こえない
風に背中だけ押されたって
雨靴が無きゃ歩き出せない

途切れることの無い黒い雲
その上に太陽があるなんて
大人だけが信じている御伽噺
水たまりが背の低い僕を映す
背伸びをして鏡を割った

雨が止む日なんかきつと来ない
ずぶ濡れのまま僕たちは進んでいく
折れた傘の数を数えては
晴れる日を祈りながら新しい傘を手にする
僕を濡らす雨粒は世界の色
弾いて初めて僕の形をした穴が開く